

一宮市  
博物館  
だより

No.36 2005.3



うほうどうじ  
尾西市指定文化財 雨宝童子像（開明・神明社所蔵）  
神仏習合により生まれた尊像で、大日如来の化身とされます。  
本像は盤領の袍を着た美豆良髪みまらみの童子形で、頭頂には五輪塔を  
戴いています。  
一宮市・尾西市・木曾川町合併記念「いちのみや文化財展」より

一宮市・尾西市・木曾川町合併記念

いちのみや文化財展

■会期／平成十七年四月二十九日(祝・金)から五月二十九日(日)まで  
 ■休館日／五月二日(月)・六日(金)・九日(月)・十六日(月)・二十三日(月)

記念講演会「いちのみやの文化財について」

一宮市文化財保護審議会委員

平田 伸夫氏

五月十五日(日)午後二時三〇分から

平成十七年四月一日、一宮市は尾西市・木曾川町との合併を迎え、新たな体制がスタートします。

明治当初、二二八箇村あった新・市域は、市制町村制の成立を契機とした明治二二年の大合併をはじめ、繰り返された合併・編入の末、今春、一市にまとまることとなりました。

新・一宮市ではこれを記念し、地域に先人より伝えられた貴重な文化財を博物館にて公開いたします。今回は、皆さんに文化財の多様性をご覧いただきたく、絵画・金工品・染織品・木製品・紙と様々な材料から成る文



出品目録No.17参照



出品目録No.16参照

化財を出品する予定です。また、館内で見ることが出来ない建造物や記念物(史跡・天然記念物等)・無形文化財などを写真パネルで紹介し、文化財の裾野の広さを感じていただければと思います。

併せて、博物館所蔵の近・現代史料から、明治以降の市町村合併について、五〇年前に実施された昭和の大合併を中心に振り返ります。(岩井 章真)

いちのみや文化財展 出品目録

指定	名称	員数	所有者等
<b>絵画</b>			
1 国	紙本着色足利義教像	1 幅	妙興寺
2 国	絹本墨画淡彩文殊図	1 幅	妙興寺
3 愛知県	五大尊画像	1 幅	長隆寺(寄託)
4 愛知県	紙本着色豊太閤画像	1 幅	妙興寺
5 一宮市	紙本着色真清田神社古絵図	1 幅	真清田神社
6 一宮市	絹本墨画月梅図	1 幅	妙興寺
7 一宮市	薬師三尊十二神将像	1 幅	頓聴寺
8 尾西市	桜花美人の図	1 幅	頓聴寺
9 尾西市	竹に尾長鳥の図	1 幅	頓聴寺
<b>金工品</b>			
10 愛知県	鑿子 付鑿子桶	1 口	妙興寺
11 一宮市	真清田神社本殿出土鎮物	一括(16点)	真清田神社
12 一宮市	喚鐘	1 口	妙興寺
13 一宮市	湖州鏡 付朱漆塗鏡篋	1 面	妙興寺
14 尾西市	瑞花双鸞八稜鏡	1 面	堤治神社
15 尾西市	懸仏	1 面	御裳神社
<b>染織品</b>			
16 愛知県	大照禪師(滅宗)袈裟 付 坐具	1 領	妙興寺
<b>木製品</b>			
17 愛知県	鬼神面	1 面	賀茂神社
18 愛知県	獅子頭	1 面	真清田神社
19 愛知県	大応国師塔銘牌	1 基	妙興寺
20 愛知県	ぼたん深彫の前卓	1 基	龍光寺
21 尾西市	雨宝童子像	1 軀	神明社
22 尾西市	絵馬(貴人乗馬の図)	1 枚	御裳神社
23 木曾川町	女面	1 面	賀茂神社
24 木曾川町	鬼神面	1 面	賀茂神社
25 木曾川町	鬼神面	1 面	賀茂神社
26 木曾川町	僧形坐像	1 軀	賀茂神社
27 木曾川町	能面一対(男の面・女の面)	2 面	賀茂神社
<b>紙</b>			
28 一宮市	真清探桃集	6 冊	真清田神社
29 一宮市	写経・刊経・経篋	8 巻・2 合	龍光寺
30 尾西市	起宿絵図	1 鋪	尾西市歴史民俗資料館
31 尾西市	蘇東耕地整理組合原形図及び予定図	3 鋪	尾西市歴史民俗資料館
32 尾西市	村中相談仕諸事相定佐法之覚	1 巻	尾西市歴史民俗資料館

※出品資料は変更する場合がございます。

計32件64点

※尾西市及び木曾川町指定文化財は、平成17年4月1日の合併を以て一宮市指定文化財となります。



出品目録No.1参照

# みんなはちびっこ考古学者!

■会 期 / 平成十七年七月三十日(土)から八月二十八日(日)まで

博物館は最前線！博物館講座の意味！

一宮市博物館ではこれまで、小・中学生を対象に、実際に体験することによって考古学などを学ぶさまざまな講座を開催してきました。

そして現在では、石器や土器を製作するという単純な講座ではなく、「材料を見る」「道具を製作する」「使ってみる」「使った痕跡を観察する」という「過程」を学ぶ講座へと発展させてきました。その理由は、「道具は何を語っているのだろうか」「資料から何が読み取れるだろうか」「記録されたこと、聞いたことは正しいのだろうか」「歴史を学ぶ意味は何だろうか」など、将来歴史学や考古学、民俗学を目指す子どもたちばかりではなく、人として生きていくときに必要な「思考する力」を育むことの必要性を強く感じるからです。

大学はそれぞれの分野でより深い最先端の研究を推進し、最新の情報を社会に提供・還元・リードしていく研究機関です。博物館はその成果をよりわかりやすく、実物資料や復元資料を使って表現し、普及する最前線であると思います。そして、研究者や地域に暮らすさまざまな年代層が融合する「場」を提供することが可能な場所です。だからこそ、「作ること」「作ったもの」という結果ではなく、「作る過程」や「作ること」によってわかること」という、将来子どもたちが背負うであろうさまざまな分野での「考える力」を育てる手助けができたかと思えます。

講座から展覧会へ

平成十六年の夏休みに開催した「子どものための尾張歴史講座」見る・聞く・さわる考古学」では、愛知県教育委員会や愛知県埋蔵文化財センターをはじめ多くの方々のご協力を得て、五講座を毎週日曜日に連続開催しました(表1)。「石器を作る・石器を使う(骨角器を作る)・石器を観察する」(写真1・2)では、まずは石器製作のレクチャーを受け、その後石器を作り、その石器を使って鹿角を加工しました。最後に、その鹿角の加工面をルーペで観察する予定でした。しかし、実際には2時間ですべての作業を終えなければならぬという過密スケジュールで、説明不足を招き、子どもたちも消化不良で終わってしまったことが否めません。「石器を作る・石器を使う・土器を観察する」も同様で、盛りだくさんのメニューでじっくり考える余裕も



写真1 石器を作る～レクチャー



写真2 骨角器を作る～レクチャー



写真3 土器を使う～レクチャー



写真4 クサビでスギの木を割る

## 表1 講座の講師とスタッフ一覧

①8月1日(日) 石器を作る・石器を使う(骨角器を作る)・石器を観察する  
◆講師及びスタッフ◆名古屋市教育委員会文化財保護室 水野裕之氏  
愛知県教育委員会文化財保護室 原田 幹氏  
愛知県埋蔵文化財センター 川添和暁氏  
名古屋大学大学院生命農学研究科 山崎 健氏  
一宮市博物館 土本典生 久保禎子

②8月8日(日) 土器を作る・土器を使う・土器を観察する  
◆講師及びスタッフ◆安城市教育委員会 岡安雅彦氏  
豊田市郷土資料館 森 泰通氏  
愛知県埋蔵文化財センター 藤山誠一氏  
一宮市博物館 土本典生 久保禎子

※製作した土器を愛知県陶磁資料館(共催)において、8/22に焼成。  
◆講師及びスタッフ◆安城市教育委員会 岡安雅彦氏  
愛知県陶磁資料館 仲野泰裕氏 小川裕紀氏  
一宮市博物館 土本典生

③8月15日(日) 縄文時代の布を編む・弥生時代の布を織る  
◆講師及びスタッフ◆一宮市博物館 久保禎子

④8月22日(日) 古代人から学ぶ木の性質と木の道具  
◆講師及びスタッフ◆東京都立大学助教授 山田昌久氏  
名古屋市見晴台考古資料館学芸員 木村有作氏  
愛知県埋蔵文化財センター 樋上 昇氏  
京都大学大学院 文学研究科 村上 由美子氏  
一宮市博物館 久保禎子

⑤8月29日(日) 金属器…耳飾りを作る  
◆講師及びスタッフ◆犬山市青塚ガイダンス施設 正岡久直氏  
愛知県埋蔵文化財センター 赤塚次郎氏

なく、流れ作業になってしまっていました。「土器の形や器種、時代による変化など、語りたいことはたくさんあるのに時間が無い!」、そんな講座でした。

そこで、今回は実際の出土資料や、出土資料から考察された復元資料、あるいはその原

材料を展示し、さらに実際に作ったり、顕微鏡を使って観察するなど、まるで「考古学者になった気分」で、土器や石器を前にして考える「展示講座」として考えています。(久保禎子)

平成十七年度特別展

# 華麗なるペルシヤ絨毯の世界

## イラン、ミリー工房の復元作品と古典作品

■会期／六月十八日(土)～七月十八日(祝・月)まで

■主催／三宮市博物館・千代田トレーディング

■協力／イラン、ミリー工房

■観覧料／一般三〇〇円(二四〇円)、高・大生五〇〇円(二〇〇円)、

小・中生一〇〇円(八〇円)

常設観覧料を含む。( )内は前売り、および二〇名以上の団体料金

西アジアに位置するイラン・イスラム共和国は、長い歴史と伝統を持つ国です。イランでは紀元前五世紀頃からパイル織り(結び織り)の絨毯を生産していたといわれています。

しかし、十九世紀末頃からイランにも西洋から化学染料や機械織りの染織品などが流入しはじめ、現代では、少数となった遊牧民でさえも次第に伝統的な絨毯製作の継承が困難になりつつあり、外国の原毛、化学染料を使用し、模様デザインも国外のデザイナーの影響を受け、民族固有の伝統を失いつつあります。このような状況の中で、ミリー家は古代の絨毯を研究して、手紡ぎ、天然染料、手織りを再生して現代風に蘇らせました。その実績は海外でも高く評価され、ミリー・ルネサンスと呼ばれています。

本展は、ミリー工房が古典絨毯をもとに新たなデザインで再創作した新しい絨毯十九点とそのオリジナル絨毯十七点を比較展示し、これに同工房が所蔵する十九世紀後半から二十世紀前半のアンティーク絨毯

約四十点を展示します。さらに、水平機や各種の織りの道具、写真資料などを展示して、糸を結んで毛羽をたてた「結びの工芸」パイル織りのペルシヤ絨毯の伝統を概観し、現代における再創造の試みを提示するものです。



古典 格子庭園模様パイル織り絨毯 20世紀前半



古典 組レンガ模様平織り敷物 1930年



古典 メダリオン・獅子と太陽模様パイル織り絨毯 20世紀前半



古典 モストウフィ模様パイル織り絨毯 20世紀前半



古典 メハラビ・花瓶模様パイル織り絨毯 20世紀初頭



同復元作品 2002年

平成十六年度(下半年)

# 文化財保護事業

長隆寺本堂緊急修理(補助事業)  
市指定・建造物・長隆寺(萩原町中島)

昨年十月、博物館へ、長隆寺の総代を務める方より一本の電話が入りました。台風で本堂の屋根が傷んでしまった、一度見て欲しい、とのことでした。

真言宗豊山派長隆寺は市内でも有数の古刹です。寺には今も長い歴史を物語る多くの文化財が伝えられています。本尊の阿彌陀如来坐像(鎌倉初期)や脇侍(鎌倉末期)、五大明王を描いた絵画(南北朝期・写真3)は愛知県の文化財に指定され、何れも博物館に寄託されています。また、境内には本堂、客殿、庫裏が並び建ち、南面する本堂のやや南には、貞享五年(一六八八)銘の鬼瓦を戴いた山門(二宮市文化財)が参道を扼しています。

また通報があった本堂は、一間の向拝が付いた桁行三間・梁行三間の小規模な寄棟造の建物です。質素な造りながら、鬼瓦に刻まれたへら書きや材の墨書から、建築年代(宝暦八年・一七五八)や由緒が明らかで、改



写真1 境内はやや荒れはじめた感

がありました。

そこで早速、次の台風襲来が予報される雨の中、状況を確認するべく長隆寺へ向かいました。本堂の様子は予想以上にひどいものでした。屋根の西側は軒先全体がへし折れ(写真1)、瓦などの葺材等が、地面や堂の濡縁に落下、堆積していました。過去の修理時に、トタンで補強された北側部分は重さで全体が垂れ下がり、北西隅の天井が破れた室内は、崩落した材が土埃にまみれていたのです(写真2)。

屋根はこれまで修繕を受けています。しかし、材の多くが腐朽により耐性を失っていたのか、台風の暴風に耐えることが出来なかつたようです。

このまま放置すれば、腐朽が進行し、堂の倒壊も時間の問題だと思われしました。そこで、すぐに総代さんと相談し、とにかく屋根の緊急修理を行うこととしました。

修理では、現状の瓦は痛みがあったため新瓦とし、鬼瓦等も再使用が難しいものとなり、寺にて保存することとなり、着工前の予定では



写真3 五大尊画像  
※「いちのみや文化財展(2頁)」にて出品いたします。

造が少ないことなどもあって、平成七年に一宮市文化財となりました。

しかしここ数十年は、無住となり、近年、境内はやや荒れはじめた感



写真2 ありませぬ。また修理に携われた業者さんにも何かとご理解とご助力をいただきました。

三月、工事は無事竣工を迎えました。まずは危機を乗り越えたといえます。修理が成ったのは、ひとえに地元の皆様のご理解とご協力のおかげです。多くの方々のご理解にあることは間違いありません。また修理に携われた業者さんにも何かとご理解とご助力をいただきました。

写真4 長隆寺遠景



写真5 工事の様子

も、添木に支えられ何とか現状を保持するだけで、これも手当が必要になりましょう。最後に、本件では、限られた条件の下で、明日へ文化財を残せるか否かという根本的で且つ逃げ場のない問題突きつけられた気がします。そして、問題は解ける気配を見せてはくれませぬ。

(岩井 章真)

参考引用 長隆寺本堂山門調査報告(一九九二)

## 明治時代の文化財保護

長隆寺の客殿に「今般内務省ヨリ當寺建物保存資金之内へ古社寺保存費ヨリ金五拾圓御下附相成候也。明治一七年(以下略)」と墨書きされた板があった。これは現在の文化財保護制度が誕生する以前、当時の内務省が、困窮する社寺等の維持を目的に交付した「保存金」の受領を示すものであろう。受領を機とする創設とも考えられるが当時の長隆寺に「建物保存資金」なる基金があったことは興味深い。

参考「文化財保護の歩み(二九六〇)



平成16年9月5日ほか

博物館講座 尾張平野を語る9

人の動きから歴史を見る



大矢雅彦氏講演

博物館講座「尾張平野を語る9」ではこれまで、歴史のみならず自然環境や民俗文化など広い分野から講師を招いて講演会を行い、濃尾平野―特に尾張平野について考えてきました。

今回は、先年度に引き続き木曽川をテーマの中心とし、川を利用した人の動きから、川が人の歴史の中でいかに重要だったかを考えました。

●テーマ「木曽川の河道変遷と濃尾平野の地形」  
講師 葛飾区郷土と天文の博物館 名誉館長大矢雅彦氏

日時 平成16年9月5日(日)  
●テーマ「檜と中山道が結ぶ尾張・木曽」  
講師 名古屋博物館 学芸員 種田祐司氏

日時 平成16年9月12日(日)  
●テーマ「法圓寺中世墓と木曽川・礪が、石塔が、そして蔵骨器が運ばれる」  
講師 一宮市博物館 学芸員 土本典生

日時 平成16年9月19日(日)  
●テーマ「木曽川をめぐる人の文化」  
講師 一宮市博物館 学芸員 久保禎子

日時 平成16年9月26日(日)  
●テーマ「古墳の石を運ぶ」  
講師 名古屋見晴台考古資料館 学芸員 服部哲也氏

日時 平成16年10月3日(日)

平成16年10月9日～11月14日

秋季特別展 山喜多二郎太

― 禅寺の天井に油彩で竜を描いた画家 ―

この特別展は、妙興寺仏殿の天井に巨大な蟠龍を描いた洋画家山喜多二郎太の作品九十四点を紹介したもので、天井画が描かれてから約半世紀の歳月を経て、本当に待望久しい展示会でした。しかし、予定されていた開会式は台風二十二号の影響で中止になってしまいました。にもかかわらず、前日東京から駆けつけられた山喜多二郎太ご長男の時志氏は「竜が開幕を喜んで嵐を呼んだのかも」と目を細めておられました。十月二十四日には、その天井画の下で、「妙興寺天井画と山喜多二郎太―油墨一如への道」と題して同氏による講演会が開かれました。

会場には美術愛好家の方々をはじめ、東京・福岡からも親族の皆様や旧知の方々が駆けつけられ、大変盛況でした。二郎太は、洋画家佐分真が亡くなったため、その遺志により制作を引き受けたのだといいますが、美術学校時代、教官が教室に入ると絵を見せるのがいやで教室をぶい

つと出てしまったという二郎太の逸話も交えながら、二人は純粋な点が共通し、互いに自分

親友であったと、佐分



展示会場

から二郎多から宛てた手紙を朗読しながら紹介されました。男同士の友情にあふれたその内容に、会場は熱い静寂に包まれていました。



講演会の様子

平成16年11月2日 第40回市民文化財めぐり

市民の方に貴重な先祖の遺産である文化財を紹介することにより、文化財愛護の精神を高めていただくため、昭和四十二年以来毎年「市民文化財めぐり」を開催しており、今回が四十回目です。コースは、真清田神社宝物館(金刀比羅宮(本殿)浄蓮寺(山門)禅林寺(重文・薬師如来坐像)常保寺(イチョウ)稲荷山古墳(妙興寺)境内地・建造物・植物)博物館(特別展「山喜多二郎太」)。



当日は快晴に恵まれ、三十二名の参加者の方々は熱心に講師の解説に聞き入っていました。

平成16年12月4日～19日

企画展 2004 一宮市現代作家美術秀選展

一宮市博物館では、昨年に引き続き、「2004 一宮市現代作家美術秀選展」を開催いたしました。第六十二回「一宮市美術展」での依頼出品者の選りすぐり作品や市長賞受賞者の作品、及び各協会推薦者の作品五十九点を展示したものです。会場は、昨年同様、特別展示室・ラウンジ・講座室・展示室4・ギャラリー



企画展 暮らしの道具と今と昔

本展覧会は、歴史を学び始める小学校四年生を対象に企画し、今回で十四回目となる展示。衣・食・住の資料を中心とした民俗資料を展示することを主眼としました。さらに、自然環境が異なる地域の資料と比較することにより、地域による生活道具や暮らしの違いについても紹介しました。毎週週末にはさまざまな催しを行ない、展示では表現できない体験をはじめ、実体験から生まれる話を聞くことができました。



週末の催事

●テーマ「昔の道具を使ってみよう！」

日時 平成17年1月9日(日)

●テーマ山のくらしを体験！(子どものための講演会と体験)

日時 平成17年1月16日(日)

●講師 澤頭修自氏・野口広子氏・和田和代氏

●テーマ平野のくらしを体験！(子どものための講演会と体験)

日時 平成17年1月23日(日)

●テーマ海のくらしを体験！(子どものための講演会と体験)

日時 平成17年1月29日(土)

●講師 赤須賀漁業協同組合・日間賀島観光協会

●テーマムギワラでネジリカゴをつくろう！

日時 平成17年2月6日(日)

●テーマKids茶会〜尾張のお茶文化体験！

日時 平成17年2月13日(日)

●テーマKids講演会〜くらし展をみんなで語ろう！

日時 平成17年2月20日(日)

発表 葉栗北小学校・浅井中小小学校・今伊勢西小学校・今伊勢小学校・宮西小学校・神山小学校・丹陽西小学校4年生

平成17年1月18日・26日  
文化財防火訓練・防火パトロール

昭和二十四年一月二十六日に法隆寺金堂壁画が焼失し、以来、文化財を火災・震災から守るため毎年この日を「文化財防火デー」と定められました。今年はその五十一回目に当たりませんが、市教育委員会は消防本部とともに一月十八日に文化財防火パトロール、二月二十六日に防火訓練・文化財管理者研修会を実施しました。防火訓練は、石刀神社境内において市消防署員・地元消防団員・神社氏子の方々を中心となつて緊急時を想定して行われ、地元町内会・保育園児など多くの参加がありました。



防火指導



受信盤の確認



防火訓練

平成17年3月5日ほか  
博物館講座「はにわをつくろう」

小学校高学年児童とその親を対象にして三月五六・二十日に開催しました。今回の参加者は、十組二十一名の親子のみなさんで、五日、六日の二日間ではにわを制作、博物館で二週間ほど乾燥させたあと、隣接する妙興寺境内で野焼きで焼き上げました。野焼きの日は、はなぐもりの日でしたが、みんなで協力してはにわを焼き上げることができました。乾燥が不十分なためか、あるいは、温度が急激に上がったせいか、割れてしまったものもあったのが残念でした。



みんなできたぞ



はにわをつくる

平成17年3月6日から3月20日まで  
作品展 手つむぎ・染め・織り展

繊維講座生と伝承会員による、第十六回作品発表会。平成十六年度に製作した、反物・テーブルセンターなど約五十点の作品を展示しました。ご観覧の方には、機織りや糸づくりの体験をしていただきました。



機織りの体験



綿繰りの体験

平成17年3月27日  
民俗芸能公演

先年に引き続き、市指定無形文化財「島文楽」(演目「傾城阿波の鳴門巡礼歌の段」と「宮後住吉踊」(演目「新念仏」手踊)の公演を行いました。



# 平成17年度催し物のご案内

**企画展** 平成17年10月1日(土)～11月27日(日)

## くらしの道具～今と昔～

平成3年度から継続している、小学生4年生を主な対象とした展示。

**企画展** 平成17年12月3日(土)～12月18日(日)

## 2005一宮市現代作家美術秀選展

一宮市博物館では、昨年に引き続いて、「2005一宮市現代作家美術秀選展」を開催します。これは、一宮美術作家協会(日本画・洋画・彫塑・工芸・デザイン各部門)、一宮書道協会・一宮写真協会の各協会それぞれの選りすぐり作品を展示するものです。

この「一宮市現代作家美術秀選展」も回を重ねる毎に、益々充実させることにより、一層の市民による美術振興に貢献出来ればと考えています。



(16年度)

**特別展** 平成18年1月5日(木)から1月29日(日)

## 発掘された日本列島2005(新発見考古速報展)

**地域展**

### 赤の美学—パレススタイル—

特別展では、2004年に注目を集めた遺跡の発掘調査で出土した遺物により、日本列島に暮らした人々の足跡を振り返ります。また地域展では、弥生時代後期から古墳時代前期にパレススタイル土器の本場であった濃尾平野各地から出土するパレススタイル土器の優品を紹介します。

**作品展** 3月5日(日)から3月19日(日)まで

## 手つむぎ・染め・織り展

繊維講座(下記参照)の受講生と卒業生(伝承会員)による、17回目の作品発表会。手つむぎ・染色・機織りなど多くの工程を経て製作された木綿の作品を展示します。



(16年度)

8月19日(金)から28日(日)

## 一宮市子ども写生大会作品展(仮題)

市内幼稚園・保育園児、小中学生参加の写生大会で、上位入賞者・学校代表の作品を展示。

**企画展** 9月2日(金)から19日(祝)

## 2005一宮美術作家新展

一宮美術作家協会会員による最新の発想でイメージの試作を展開した力作(日本画・洋画・彫塑・デザイン・工芸作品)を展示。

**企画展** 9月23日(祝)から30日(金)

## 一宮写真協会10人展(仮題)

一宮写真協会会員の感性に裏打ちされた表現力で、熱い思いを込めた作品を展示。

# 講座のご案内

**繊維講座** 4月～2月 3月に作品展

一宮地方は、江戸後期から明治前期にかけて、結城縞や棧留縞など縞木綿の生産で有名でした。本講座は、この縞木綿の歴史をたどるとともに、その当時の技術の保存及び伝承を目的としています。通年計20回の講座。年度末の「手つむぎ・染め・織り展」では、1年の成果を作品として発表します。

**古文書講座** 5月～2月

本講座は、当館で保管している江戸期一宮の古文書をテキストとして使用し、古文書の読解力を養うと共に、その歴史的背景を学ぶ目的で開催しています。5月から2月までほぼ毎月1回、合計10回の講座を開き、3年で修了としています。4月1日の市広報紙上で新受講生を募集します。



**博物館講座** 7月31日、8月7日、14日、21日、28日

## 子どものための尾張歴史講座

夏休み中の日曜日に、「骨角器をつくる」「木製品をつくる」など、弥生時代～古墳時代の人々の暮らしに焦点をあて、体験を中心に歴史を学ぶ講座。

**博物館講座** 平成18年2月の日曜日

## 尾張平野を語る10 ～戦国時代の尾張(仮題)～

戦国時代における尾張の特徴を、文献史学・考古学の両面から探ります。

**一宮市  
博物館  
だより**

第36号

発行日……平成17年3月31日  
編集・発行……一宮市博物館  
制作……日本印刷株式会社

## 利用のご案内

名鉄名古屋本線「妙興寺」駅下車徒歩7分  
〒491-0922 愛知県一宮市大和町妙興寺2390  
TEL 0586-46-3215 FAX 0586-46-3216  
【観覧料】(常設展・聴講料含む・特別展の場合は別途定める。)  
一般=200円(160円) 高・大生=100円(80円)  
小中生=50円(40円) \*( )は20人以上の団体料金  
【休館日】毎週月曜日、休日の翌日、12月28日～1月4日  
【開館時間】午前9時30分～午後5時(入館は4時30分まで)  
※一宮市内の小・中学生は無料。(特別展期間中はのぞく。)  
※一宮市発行の「シルバー優待証明書」持参の方は無料。

【HP】<http://www.city.ichinomiya.aichi.jp/division/museum/index.html>

